

全国で初めて一体開催した「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」のレガシーを受け継ぎ、「奈良県大芸術祭」と「奈良県障害者大芸術祭」を一体開催し、平成30年9月から11月までの3ヶ月間、**文化の力で奈良を元気にする**。

「国文祭・障文祭なら2017」の実施から得られたレガシー



①ともに楽しむ文化芸術活動へ

「国民文化祭」と「全国障害者芸術・文化祭」の一体開催により、障害のある人とない人の交流が促進され、**障害のあるなしにかかわらず誰もが参加し楽しむことができる文化芸術活動が誕生**

②「奈良モデル」で文化を推進

市町村や社寺と連携する事業を展開することにより、**奈良県の文化力を向上させ地域を活性化**

③歴史文化資源の再発見

地域に根づく伝統芸能の発掘により、**奈良の持つ歴史文化資源の価値を再認識し未来へ継承**

④鑑賞から参加・体験へ

参加・体験型イベントの開催により、**県民の文化芸術活動の裾野を拡大**

継
承

平成29年度奈良県大芸術祭の成果と課題

【成果】

○子どもや若年層を対象とした参加型事業の実施により、**幅広い年齢層へ裾野が拡大**

(実施事業:まちなかアート、ダンボールアート)

○長期開催型の事業展開により、**文化にふれる機会を継続提供**

(実施事業:まちなかアート)

○社寺との連携実施により、**文化を通して奈良を体感**

(実施事業:フォーラムNARA、国際交流フェスティバル)

【課題】

○若年層の参加拡大を図る内容の充実に努めたものの依然として高齢者の参加が多かったため、若年層へ行き届く**広報手段の検討**と**参加意欲が沸く事業展開**を図る。

○国文祭・障文祭による文化を楽しむ機運の高まりが一過性のもとなる恐れがあるため、**参加催事数を維持する効果的な広報**と**魅力ある事業内容の充実**を図る。

継
続

平成30年度

「奈良県大芸術祭」「奈良県障害者大芸術祭」の概要



①テーマ

「文化の力で奈良を元気に！」

②実施方針

○障害のある人とない人が「交流・共創」する**芸術文化活動の「先駆者」として全国に発信**

○2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、**文化を奈良のブランドとして力強く発信**

○車いす席・手話通訳者の設置、点字資料作成など、**障害のある人も参加しやすいイベント運営**を実施

○参加し楽しめるイベントを展開し、**県民の芸術文化活動の裾野を拡大**

③展開キーワード:「触れる」「感じる」「つながる」

・障害のある人とない人が「つながる」仕組みづくり、事業展開

・「2020年東京オリパラ」に「つながる」魅力の発信

・文化芸術活動を行っていない方が、「触れる」「感じる」ことのできる参加体験型イベントを実施。文化芸術の振興に「つながる」層の掘り起こし

・市町村、社寺と「つながる」文化の奈良モデルを推進し、奈良県全体の文化力を向上

④開催期間

平成30年9月1日(土)から11月30日(金)

